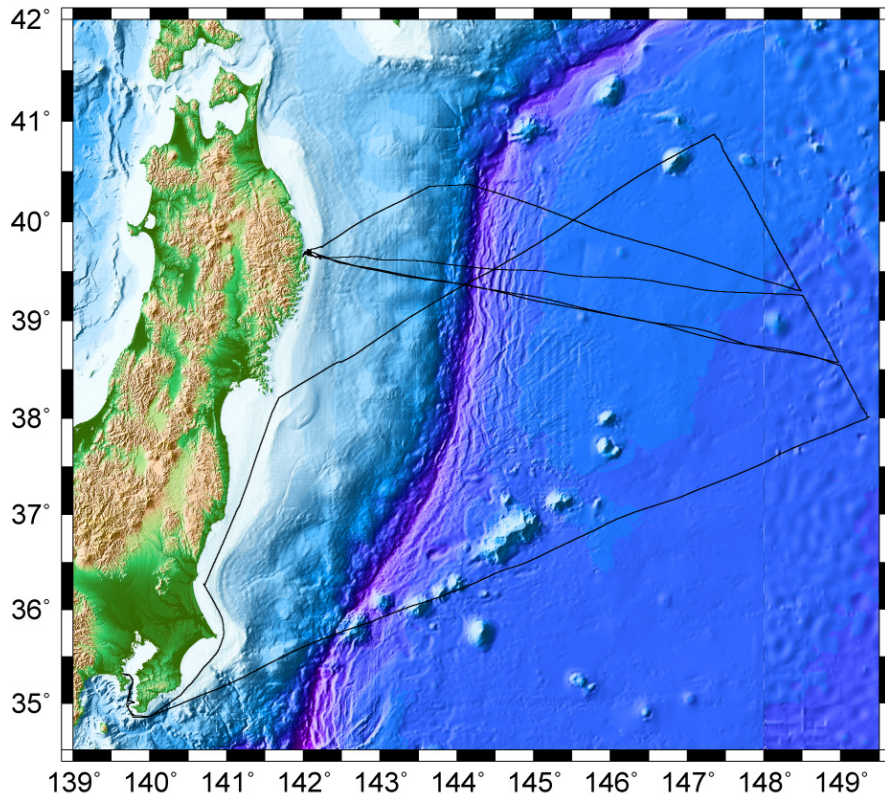


提出日平成21年8月27日

クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY09-03・「かいよう」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成21年度「北西太平洋における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：佐藤 壮・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
深尾良夫・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
「高精度地殻構造探査にかかわる日本海溝沖・北西太平洋での構造探査研究」
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成21年7月5日～7月21日・海洋研究開発機構岸壁～海洋研究開発機構岸壁
- (7) 調査海域：北西太平洋海域
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

北西太平洋では、東太平洋中央海嶺で形成された古い海洋プレートが日本海溝や千島海溝から島弧下へと沈み込んでいる。IODP 計画で推進をうたわれているモホール計画を進める上で、海洋プレートの詳細構造や構造変遷過程を把握することは必要不可欠である。沈み込む海洋プレートの詳細構造および構造変遷過程の把握は、島弧における地震・火山などの活動やその不均質性を理解することにも寄与できる。本調査は、北西太平洋海域に到達した古い海洋プレートの標準的な構造を捉えるとともに、アウターライズにおける海洋プレート構造の変質を捉えることを目的としている。

(2) 実施項目：

1) 海底地震計 (OBS) 回収

KR09-06 航海にて設置した OBS を回収した。

2) 屈折法・反射法地震探査 (海底地震計とエアガンを用いた観測作業)

S1 測線上で海底地震計と大容量エアガンシステムアレー (総容量 12,000 立方インチ) を用いた屈折法・反射法地震探査を行う予定していたが、悪天候が続き、OBS 回収を優先するため中止した。

3) 海底地形観測

測線上にてマルチビーム測深器を用いて海底地形データを取得した。

4) 音速補正のための水温・塩分濃度観測

海底地形調査の音速補正用に expendable-Bathy Thermograph (XBT) を 2 箇所を実施した。